

堀元教授退職記念号によせて

経済学部長・経済学会会長 神立孝一

堀元先生は、2013年3月末日をもって、創価大学経済学部教授を退職されました。2003年に東北大学経済学部から赴任されて、10年間にわたり教鞭を執っていただきました。

堀先生は理論経済学、なかんずくマクロ経済学の大家であり、多くの研究者に影響を与えてられました。創価大学にお迎えできたのは、本当に幸運以外の何ものでもなかったと思います。学生たちも、その警咳に接し、大きな刺激を受けたに違いありません。

本学においてから、経済学部の様々な教員とも接していただきましたが、私もその一人でありました。先生は、ご専門の理論経済学だけではなく、広く社会科学全般から、人文系の学問領域に至るまで、広い視野をお持ちで、経済史が専門の私も、数々の示唆をいただきました。幕末の英国の通訳であったアーネスト・サトウに関連する作品をご紹介いただき、今まで知ることのできなかった知見を学ぶことができたのは、非常に楽しい思い出でした。先生が、幕末期の日本について、やや興奮気味にお話しになっていたことが忘れられません。

また、冬が近くなると、何となくそわそわされておられましたが、それが趣味のスキーによることだと知りました。若い頃から数多くのご経験を積まれておられるようですが、おそらく退職後もお続けになるのではないかと推察しております。スポーツの話題も、いつも豊富にお持ちでした。

背がすらっと高く、颯爽と廊下を歩かれるお姿に接することができなくなるのが、とても寂しいのですが、先生のますますのご健勝を心からお祈り申し上げたいと存じます。

創価経済学会としても、これまでの堀先生のご功績と本学におけるご貢献に対し、退職記念号を発刊することにいたしました。私どもの感謝の念が、少しでも先生にお伝えできれば、これにすぎたる喜びはございません。

心からの御礼を申し上げて、退職記念号の言葉とさせていただきます。堀先生、本当に有り難うございました。